PLAN INTERNATIONAL

GIRLS' RIGHTS IN CLIMATE STRATEGIES



気候変動と女の子の権利～新たな取り組み～


INCLUIR A LAS NIÑAS
Y JÓVENES EN LA ACCIÓN
POR EL CLIMA
PLAN
GIRLS GET EQUAL
asuntospendientes.org

GIRLS' RIGHTS IN CLIMATE STRATEGIES

気候変動は現代でもっとも重要な、世代間の公正に関わる問題である。現在汚染され劣化した地球への気候変動の影響の重荷は、子どもたちと将来世代にのしかかっており、今後さらに影響が増すと考えられる。気候変動が社会や地域に及ぼす影響は、不平等で不均等に分配されている。

経済的、社会的、そして、ジェンダーに基づく不平等は、地球の脆弱性を増加させている。国際的な政策立案者と各国政府は、気候危機への対処に奮闘しているものので、もっとも危機的状況にあるマイノリティの人々の人権は軽視されやすい。

気候変動によりもたらされた急速な災害の発生と、長期的で緩慢な土地と暮らしへの影響は、既存のジェンダー不平等を助長させている。それは、女性が生活、健康そして経済的に、男性よりも大きな危機に直面することを意味している。子どもたちも山火事、洪水、干ばつ、嵐、水不足、不衛生といった気候関連の問題に関連づけられた病気、怪我そして精神的・社会的な心的外傷（トラウマ）において、より影響を受けやすく、大人よりも大きな危機に晒されている。

研究によると、これら2つの脆弱性が交差すると、もっとも苦しむことになるのは、特に後発発展途上国の社会の周辺に取り残されたコミュニティの女の子や若い女性である。危機に適応したり対処したりするのに役立つ情報と資源へのアクセス不足により、彼女たちへの影響はより大きくなる。

危機にさらされる女の子たち

・気候の影響は、特に思春期の女の子と若い女性を、一時的なシェルターにおける人身取引や性暴力などの人権侵害や、家族計画や妊娠・出産後のケアのような重要な保健サービスを受けられないという危険にさらしている。

・特に最も貧しい国々の思春期の女の子と若い女性は、気候変動に起因する災害から起きた影響によって増えた家事や育児の負担を減らすために、学校を中途退学させられる恐れがある。また、学校に通っていない女の子は、気候変動についての情報がより限られるため、影響をさらに受ける傾向があり、特別な支援が必要である。

・経済的負担や環境的困難、気候関連の災害の影響により女の子の安全を懸念するあまりに、家族が女の子を早く結婚させる可能性がある。多くの場合、早すぎる妊娠を含む早い段階での大きな生活の変化は、女の子たちを世代間の貧困、脆弱性、社会的疎外の悪循環に陥れることを意味する。

特に最も貧しい国々の中でも社会の周縁に置かれた女の子たちは、ジェンダー、社会、世代間での不公平により、気候変動にもっとも脆弱である。

Cover photograph: *Girl affected by El Nino-induced drought on her way to collect water, Ethiopia ©Plan International / Petterik Wiggers*

Left: *Youth advocate demands the inclusion of girls and young women in climate action, Spain. © Plan International*

女の子の意思・自己決定能力

気候変動が起きている中で女の子の権利を無視することは、気候変動の軽減・適応戦略に貢献する彼女たちの意思や自己決定能力を無視することにもつながる。女の子は、特定の点において気候危機に対して脆弱であるが、彼女たちが属するコミュニティを熱心に助けるし、その能力を持っている。

「私は学校で気候変動についてたくさん学び、両親と情報を共有したけれど、まだ両親が何の行動も起こしてないと感じています」

（5年生のタイの女の子）

国際的な気候危機への抗議の顔となったのは、スウェーデンの16歳の女の子だ。

「私はあなたに楽観的になってほしくない。動揺してほしい。私が毎日感じている恐怖をあなたにも感じてほしい。そして行動を起こしてほしい」

（グレタ・トゥーンベリ、16歳　スウェーデンの活動家）

排出量の迅速な削減とパリ合意の目標を達成するのは政府の責任である。一方、研究によって、気候変動に対応する中での女の子の性と生殖に関する健康と権利（SRHR）と同様に、女の子の教育の役割が明らかになっている。女の子と女性が自身で妊娠をコントロールでき、偶然でなく自ら選んで子どもを持てたとき、予期せぬ妊娠を減らし、人口増加によい影響を及ぼすことができる。しかし、彼女たちの権利が否定されれば、人口は増加し、家族やコミュニティが対応できるレベルを超えることもある。

女の子が質の高い教育を受け、自分たちの性と生殖に関する健康をコントロールすることができれば、より持続可能な社会と環境にやさしい経済に貢献できるようになる。女の子の教育を受ける権利と性と生殖に関する健康を実現するための手助けは、優先度が高く、気候変動戦略において不可欠である。



Girls plant mangrove seedlings to reduce coastal erosion, Philippines © Plan International

バングラデシュとエチオピア出身の女の子に、気候変動の要因と影響に対処するためにもっとも助けとなるのは何かと尋ねたところ、3つの明確な優先事項の回答があった。

01 気候変動の危機に適応し、そのリスクを軽減するための知識、スキル、能力を向上させる質のよい教育へのより充実したアクセス

02 災害や気候変動により悪化する、児童労働、早すぎる結婚、性暴力を含むジェンダーに基づく暴力からの保護をより充実する

03 気候変動に即応するための意思決定とリスク軽減活動へのさらなる参加

女の子や若い女性への気候変動の負担を軽減するために何をするべきか、何ができるか2つの問いかけが重要である。

気候変動戦略は、社会的保護と包摂、社会的に弱い立場に置かれたグループのエンパワーメントに適切な配慮をしているか？

気候変動戦略は、特に女の子の教育に、そして包摂的で、質が高く、ジェンダー・トランフォーマティブ[1]な教育に、広範な配慮をしているか？

[1] 不平等なジェンダーのパワーバランスやジェンダー規範を変えようとする明白な意図があり、単に女性・女 の子の現状を改善するだけでなく、彼女たちの社会的地位を改善し、彼女たちが権利を十分行使できるように目指すことである。

「教育を受けていない世代は希望を失なっています。私たちは声を聞いてもらい、参加する必要があります。未来が必要です。私たちには教育を受ける権利があり、学校に通いたいのです」

（ベティ、17歳、ウガンダの女の子）

調査手法[10]

これらの質問に答え、各国の政策が女の子と教育にどれだけ配慮がされているかを知るため、重要な用語を、英語、スペイン語、フランス語で書かれた160カ国の削減目標（NDC: Nationally Determined Contribution）と13カ国の国別適応計画（NAPs: National Adaption Plans）からマッピングした。そこには、女性、女の子、ジェンダー、教育、子ども、若者、スキル、将来世代と健康といった用語が含まれている。

この分析は、気候変動に対抗する各国の気候政策の進展を追跡して得た、ジェンダー平等、女の子の教育、社会的に疎外されているグループのエンパワーメントについての現在の状況を明らかにする。

Nationally Determined Contributions: Countries' plans that explain how they will meet agreed global targets on emissions and adaptation.

National Adaptation Plans: Countries' medium to long-term plans to adapt to the effects of climate change.



Girl at a climate strike, Australia
© Plan International

各国の長い道のりが明らかに

- 43%の国々が女性またはジェンダーに言及していた。一方で、そのほとんどの国でが、女性は気候変動の軽減または適応への貢献者としてよりも、女性が脆弱なグループと認識されている。
- 3カ国の削減目標だけが女の子について明確に言及していた。うち2カ国は、能力開発というよりはむしろニーズの文脈で女の子を捉えていた。そして女の子の教育について明確に言及していたのは1カ国だけだった。
- 将来世代の問題に言及した国々は、15歳以下の人口が多い"若い"国であり、気候変動に脆弱な国々である傾向がある。しかし、7カ国の削減目標だけが、意思決定者として、もしくは気候変動への活動に含まれるべきステークホルダーとしての子どもないし若者に言及していた。
- 68%の国の削減目標が教育について言及していたが、ほとんどは意識の向上といった漠然とした言葉で書かれており、若者を対象にしていない、もしくは気候危機に取り組むための国の教育カリキュラムの一部にしかなっていない。
- どの削減目標も、女の子の教育への投資が気候変動戦略を推しすすめる貢献について公式に認識していない。
- 気候変動戦略は、結局のところ技術的な困難に集中しており、人々、特に教育や情報によってエンパワーメントされた女の子や若い女性が起こす貢献や社会的問題を無視している。

43%

気候変動戦略で女性またはジェンダーに言及した国

42%

子どもおよび若者に言及した国

気候変動に何らかの貢献を表明する160か国中

3か国

女の子に言及

1か国

女の子の教育に言及

結論と提言

子どもたちや若者を、今すぐコミュニティで行動を起こせるように能力強化し、し、将来のステークホルダーとして積極的に組み入れないことは、今日の気候危機への取り組みを成功に導かないだけでなく、将来にわたる問題をさらに悪化させている。

ジェンダーと年齢の観点から、国の気候政策は、気候変動にもっとも脆弱な人々が直面する問題に適切に対応していないことは明白である。策定は技術的な問題点に集中しており、気候危機の社会的な示唆については考慮されていない。

全体にわたり、国際的に多くの若者や女の子がもっている気候変動に対する強い関心と高い課題解決能力に関する証拠があるにも関わらず、政府は一貫して、一般に若者（特に女の子）を気候変動戦略の中に含めずにいる。

2015年のパリ合意で認められたように、気候危機への対抗は、人権の尊重に基づくべきである。人権には、人々の間やジェンダー間、世代間、国家間における平等の概念が含まれる。私たちは過渡期の非常に重要な段階にいる。今すぐ行動しないことは、人類の存続はもちろんのこと、将来世代の生命と権利に危機をもたらす。どの気候政策やグリーンニューディール政策 でも、誰も取り残してはならない。

「私たちは沿岸の清掃活動をしており、ビーチにマングローブの植林をしている。今年の夏には、ごみの分別でバランガイ（村）を助ける活動に取り掛かるつもりです。2013年に台風を経験し、今や、海岸が海に少しずつ浸食されており、私たちは家を失うことを恐れています。もし私たちが何もしなければ、海岸侵食によって将来家を失うことになるかもしれません」

（ルイーザ、15歳、
フィリピンの気候変動活動家、）

プラン・インターナショナルは調査結果に基づき、以下を提言する。

01 女の子の教育に投資し、今そして将来にわたり必要とする情報や訓練、スキルを得るための機会を確保する。

政府と政策立案者は、以下のことをしなければならない。

a. 女の子の教育へのアクセスと就学の継続を、非公式教育の機会の提供などによりサポートする。気候変動で悪化した、女の子が学校に通えなくなる社会・経済的要因を認識し、対処しなければならない。

b. 若者たちが気候変更の危機の影響に対応し、気候変動活動家として気候変動への適応策と軽減策において指導的役割を担い、政府の責任を問うのに必要な広範囲にわたる知識とスキルを備えさせる教育への統合的アプローチを適用するために、省庁間で協働する。

c. ジェンダー・トランフォーマティブ[3]で、包括的な質の高い教育の供給を、気候変動へのグローバルな対応において不可欠な要素として認識し、支持する。特に、これは女の子が気候正義を求める運動で指導的役割を担うことを支持する。

d. 若者、特に女の子が、環境にやさしい経済への移行において 彼女たちを支える関連スキルと知識を得られるよう、トレーニングへのアクセスを改善する。これは、女の子が、より持続可能な経済に貢献し、新しい機会を見つけて利益を得ることができるように、今の過渡期における彼女たちの生活や生計を理解し適応するのを支援することを含む。

民間セクターは、以下のことをしなければならない。

a. 女の子や若い女性が能力を発揮できる環境を作る、持続可能な仕事でのキャリアのためのトレーニングに投資する、平等な雇用機会を提供する。

2 グリーンニューディール（Green New Deal）：米国において、温暖化防止と経済格差の是正をもたらす形で行う経済刺激策のことを意味する。

3 ジェンダートランスフォーマティブ（gender-transformative）：不平等なジェンダーのパワーバランスを変えようとする明白な意図がある。プログラムの焦点は、単に女性／女の子の現状を改善するだけでなく、彼女たちの社会的地位（社会における彼らの価値）を改善し、彼女たちが権利を十分行使できるように目指すことである。

02 女の子のリーダーシップを推奨し、国の削減目標および国別適応計画の策定、導入、監視に含める。

政府と政策立案者は、以下のことをしなければならない。

a. 気候変動の女の子への特有な影響に対処するために、削減目標の改訂において、女の子の権利を含める。これは女の子と若い女性の積極的な関与によってなされるべきである。

b. ジェンダーアクションプランの改訂や導入の際は、女の子に配慮する。

c. 重要な意思決定の場において、女の子にリーダーシップの役割を提供し、気候変動にむけた行動において、男女に偏りがない意識の高い若者の参加を確保するメカニズムを強化する。女の子と若い女性は気候政策や戦略から利益を得るだけでなく、それらの策定への積極的な参加者になるべきである。

d. 女の子たちのインターネット上や住民討論の場での安全を確保し、声を上げられるようにすることで、女の子の気候変動にむけた活動をサポートする。

e. 気候変動にむけた活動は、女の子が、自身の生活に影響する問題について声を上げる意義ある機会だが、気候危機の解決を若い世代に負わせてはならない。

市民社会組織とコミュニティのリーダー、メディアは以下のことをしなければならない。

a. 政府が、気候変動戦略 においてジェンダーと世代間の平等を確保することに責任を持ち、国の政策を地域の状況に適応させることを保証するよう支援する。

b. 女の子と女性を巻き込むことを強調し、適切な国の気候政策の策定と改訂の戦略的過程において政府と協働する。気候政策は、もっとも社会的に弱い立場にある人々を支援し、人権法やジェンダー政策と積極的に連動させるべきである。

03 気候正義[4]の執行

政府と政策立案者は、以下のことをしなければならない。

a. 2015年のパリ合意において明確に表現された気候正義の原理を支持する。後発開発途上国やもっとも社会の周辺に取り残されたグループは、気候危機の負担に耐えられないことは明白である。先進国は、歴史的に気候変動の発生にもっとも責任があり、後発開発途上国や社会の周辺に取り残されたグループの人権を守り、支えるために、経済的・社会的な支援を提供しなければならない。

b. 気候正義を果たすためには、すべての政治宣言声明文と気候危機への行動計画において、世代間の公平を認める必要がある。ジェンダーや、女の子と若い女性の気候危機への脆弱性の共通部分について特別な言及をしつつ、若者の権利を支持する多大なる努力がなされなければならない。

c. 政府は、気候変動における子どもの権利を支持し、彼らが気候正義運動において果たしている重要な役割を認識して、子どもや若者、気候変動についての政府間の宣言に署名しなければならない。

市民社会組織とコミュニティのリーダー、メディアは以下のことをしなければならない。

a. ジェンダー不平等を非難し、気候正義 とジェンダー公平が繋がっていることを認識する。早すぎる結婚や性暴力、教育機会の喪失といったリスクの増加から女の子を守るための方策をつくる。

[4] 気候正義（climate justice）：先進国による化石燃料の大量消費が引き起こした気候変動への責任を先進国が果たし、すべての人々の暮らしと生態系の尊さを重視した取り組みを行う事によって、化石燃料をこれまであまり使ってこなかった途上国の方が被害を被っている不公平さを正していこうという考え方。

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22
サンタワーズセンタービル10F&11F
Tel: 03-5481-3533
Email: advocacy@plan-international.jp

Planinternational.jp
@Plan_Intl_jp

本報告書で使用されている写真はイメージであり、報告書と直接の関係はない。

プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために世界70カ国以上で活動する国際NGOです。創立は1937年。長年にわたり、子どもや若者、地域の人々とともに地域開発をすすめてきました。すべての子どもたちの権利が守られるよう、とりわけ女の子や女性への支援に力を入れています。市民社会、政府機関や国際機関と連携しながら、世界を持続的に、前向きに変えていきます。

本報告書はクリスティナ・クワウク（Christina Kwauk）【ブルッキングス研究所（The Brookings Institution）】、ジェシカ・クック（Jessica Cooke）、エリサ・ハラ（Elisa Hara）【プラン・インターナショナル（Plan International）】およびジョニ・ペグラム（Joni Pegram）【国連児童基金（UNICEF）】共著『Girls' Education in Climate Strategies: Opportunities for Improved Policy and Enhanced Action in Nationally Determined Contributions』を元に制作された。